

**「あり方生き方」を育む進路指導の研究**



浦添市立港川中学校

教諭 又吉 桂子

## 目次

I	テーマ設定の理由	1
II	研究の目標	2
III	研究の仮説	2
IV	研究構想図	2
V	研究の内容	3
	1 本研究における「生きる力」	
	2 あり方生き方を育む進路指導	
	3 振り返りの材料『ポートフォリオ』	
VI	単元の構想図	6
VII	研究の実際	8
VIII	研究の成果と課題	18
	終わりに	19

[引用・参考文献]

# 「あり方生き方」を育む進路指導の研究

浦添市立港川中学校 又 吉 桂 子

## 【要 約】

この研究は、夢や希望をもち自己実現を追求する生徒の育成をめざした進路指導の単元を構想しようとするものである。「人は対象との出会い（Begegnung）を通して人格を完成させていく」という視点にたち、従来の進路学習に道徳や各教科からのアプローチを取り入れ、啓発的経験を織り込んだ、「あり方生き方」指導の単元を構想した。また単元の節目にはポートフォリオをおき、生徒自ら学びを再構築し、それを媒介として教師や他の生徒と対話・交流できるように計画を立てた。その結果、生徒が自己を発見し「生き方」を模索する自分探しの旅に漕ぎ出すことができた。

### キーワード

- 関係的自己実現
- 「あり方生き方」を育む進路指導
- 単元構想
- ポートフォリオ
- キャリアガイダンスとキャリアカウンセリング

## I テーマ設定の理由

生徒を取り巻く今日の社会は、物質的な豊かさの半面、いじめ・不登校・社会体験の不足などにより、人間性を育む大切な時期に様々な問題を生じさせている。今後我が国は、ますますの科学技術の発達により、高度の国際化・情報化の時代を迎えるであろう。しかしながら、環境問題・高齢化・少子化の傾向など、様々な様相を呈することが予想され、これらの変化をふまえた新しい時代の教育のあり方が、今問われている。このような社会の要請を請けて、平成10年12月に新中学校学習指導要領が告示され、「生きる力」を育むことをねらいとした「総合的な学習の時間」が創設されることとなった。「総合的な学習の時間」では、各学校が特色ある教育を展開し、「生きる力」を育む重要な役割を担うものとして期待されている。

さて進路指導実態調査を見ると、今や本県の高校中退率・若年無業者率の高さは全国比においても突出しており、憂うべき状況にある。背景には、高校生活や職業生活に対する認識の不足、目的意識の欠如等があり、出口機関である中学校の進路指導のあり方も考えねばならない時期にきている。

これまでの私自身の実践を振り返ってみても、やはり進度に追われ知識を伝達することはばかりにとらわれた授業が多かったように思う。そのような授業形態に慣れた生徒達は、安易に正解を求め、新たな

事物にふれた感動や疑問を抱かない。生徒たちは、教室の中で繰り返される教科の世界と自分を取り巻く現実の世界は異なるものと認識しているように思える。学んだ知識はテストでしか役に立たず、よりよく生きるため、夢を切り拓くための方策とはならなかった。そのような生徒達のもの考え方は、自らの進路選択にも影響を及ぼしている。3年生ともなると進路に対する関心が高まってはくる。しかし、「自分の学力でどの高校に入れるか」が最大の関心事となり、「何を学ぶためにこの高校に行くのか」「どのような生き方がしたいのか」まで考えを深めさせることができなかった。送り出した生徒が生き生きとした高校生活を送って欲しいと願っているが、適応に悩む生徒、ドロップアウトした生徒の噂を耳にすると、元担任としては、自戒の念が湧いてくるのである。

本校はこれまでも、年間計画に基づいた進路指導を推進してきた。しかし生徒の自己概念の形成、目的意識の高揚には至らず、『生き方指導』としての進路指導は、依然として学校全体でとり組むべき課題である。道徳や特別活動、各教科との関連を図りながら、『総合的な学習の時間』において『あり方生き方を育む進路指導』を行うことは、求められる「生きる力」に迫るものであると考える。夢や希望をもち、自己実現を図る生徒の育成をめざして、その単元を構成したいと考え、本テーマを設定した。

## II 研究の目標

開発・予防的なカウンセリング（以下育てるカウンセリング）における進路指導を展開することにより、生徒に、夢や希望をもち自己実現を追求する態度を育てる。

## III 研究の仮説

### 1 基本仮説

育てるカウンセリングにおける進路指導の単元を展開することにより、生徒の自己肯定感が高まり、受容・共感的な雰囲気の中で自己実現を追求する態度が育つであろう。

### 2 作業仮説

(1) 従来の『進路学習』に構成的グループ・エンカウンターエクササイズを計画的に取り入れることにより、学級内に受容・共感的な雰囲気が作られ、その中で生徒は自己肯定感を高めることができるであろう。

(2) 自己理解・職業理解・啓発的経験を織り込んだ単元を構成し、道徳や各教科・領域から「生き方」を問う視点を投げかければ、生徒は将来の生活へ展望をもち、現在の生活を見つめ直すようになるであろう。

(3) 単元の節目にポート・フォリオを作成させることで、生徒の学びの再構築、それを媒介とする対話が生まれるであろう。

## IV 研究構想図

目指す生徒像

将来の生活に夢や希望をもち、自己実現を図ることのできる生徒

研究テーマ：「あり方生き方」を育む進路指導の研究

### 研究仮説

開発・予防的なカウンセリング（以下「育てるカウンセリング」）における進路指導を展開することにより、生徒の自己肯定感が高まり、夢や希望を持ち自己実現を追求する態度が育つであろう

### 研究内容

「生きる力」の焦点化  
自らの実践の反省・実態把握  
関係的自己実現

「あり方生き方」を育む進路指導  
「育てるカウンセリング」の理論研究  
『自分探しの旅』の単元構想

『ポートフォリオ』  
『ポートフォリオ』理論研究  
『スタディーノート』の吟味

単元構想

検証授業

成果と今後の課題

## V 研究の内容

### 1 本研究における「生きる力」

#### (1) 『総合的な学習の時間』のねらい

新学習指導要領の総則では、『総合的な学習の時間』のねらいを、以下のように示している。

・自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。

・学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探求活動に主体的・創造的にとり組む態度を育て、自己の生き方を考える事ができるようにすること。

つまり、問題解決や探求活動を行う過程の中で、学び方やものの考え方を身につけさせること（方法知）、また、あらゆる教科領域で身につけた知識や技能等を関連づけること（知の総合化）をねらいとしていることがわかる。

#### (2) 「生きる力」とは

では、それにより育まれるべき「生きる力」とは何か。高階玲治氏は、生きる力を次の3つに整理している。1つ目は「自ら生きる力」－自立心・自己抑制・自己責任・自助の精神・個性尊重など。2つ目は「共に生きる力」－他者の個性尊重・異質性への寛容・思いやり・やさしさなど。そして3つ目は「豊かに生きる力」－情報選択・活用能力・理性的な判断力・合理的な精神・美しいものや自然に感動する心など。

本研究では、指導要領で述べられているねらいをふまえ、「生きる力」を「関係的自己実現」ととらえ、それを追求するべく研究を進めてきた。

#### (3) 関係的自己実現

進路指導のねらいは自己実現である。しかし自己実現は、ひたすら個人の内省化、研鑽によって達成されるものではない。ボルノー（Bollnow.O.F.1959）によると、「人間は出会い（Begegnung）において人間そのも

のとなる。自己は、根本的には私の孤独のうちにあるのではなく、常に汝との出会いにおいてのみ現れる」ということになる。よい人間関係がよい人格を育て、悪い人間関係は人の人格形成にも影をおとすということである。「出会い（Begegnung）」を教科の世界や美しいもの、崇高なものにまで拡大して考えた場合、人間は人やあらゆる事物との出会いの中で生まれ、錬磨されていくということになろう。そのような「出会いにおいて自己が育まれる」ということを、私は「関係的自己実現」と理解している。

### 2 「あり方生き方」を育む進路指導

#### (1) カウンセリングを生かした進路指導

カウンセリングは、人が成長するに伴って解決せねばならない問題（発達課題）への対処を援助する。一般には治療的な側面と開発的な側面があるが、近年、開発的な側面を生かして、カウンセリングを集団指導に取り入れる方法が多く開発されている。一人ひとりの課題に応じる進路指導は、その基本である。本来、進路指導とはガイダンス機能とカウンセリング機能を兼ね備えたものでなくてはならない。カウンセリングを生かすことで、主体性を重視し、「あり方生き方」のレベルにまで掘り下げた進路指導を展開することができる。

#### (2) ロジャースとエンカウンターグループ

ロジャース（Rogers.C.R.1951）は、「すべての個人は、成長への力、または自己実現への力を内にもっている」から、来談者（client）に主体性をもたせ、あるがままに受容・共感することで、来談者は自身の問題を乗り越えていく」とする「来談者中心療法」を提唱した。その理論のもと「エンカウンターグループ」が登場してくる。それにもいくつかの弱点があり、改善が加えられたが、人間信頼・人間尊重の精神を根本とする考え方は、育てるカウンセリング理論の基礎となっている。

### (3) 構成的グループエンカウンター

わが国においては、國分康孝氏が改善を加え、1965年に「構成的グループエンカウンター」として紹介した。参加者に課題を与える、グループサイズ、時間の枠で構成するところが特徴である。

参加者はリーダーの指示に従い課題をこなしていくが、その過程において「信頼感」や「自己理解」「他者理解」という隠されたねらいを達成していく。それゆえリーダーの役割は大きく、グループ全体を見渡し、必要に応じて介入していかなくてはならない。

傾聴、暖かな言葉かけを心がけることで、互いに自己存在感を高め、受容・共感的な雰囲気を作られていく。そして最後にシェアリングと呼ばれる振り返りの時間をもつ。今日の課題について互いに感想を述べ合うことで、気付き、体験の定着を図ることができる。

リレーション作り、自己発見をねらいとした集団体験学習として、さまざまな場面で実践を重ねている。「あり方生き方」を育む進路指導では、グループカウンセリングの場で用いられる。

### (4) キャリアガイダンスとキャリアカウンセリング

進路指導は、「キャリアガイダンス・アンド・キャリアカウンセリング」である。

受容・共感的な雰囲気の中で「生徒の自己理解」をうながすことは、もちろん大切である。しかし系統立った進路学習もやはり軽んずることはできない。世の中のありようを知り、職業世界を理解することなくしては、将来を展望し夢や希望を持たせることはできないからである。

進路学習は、職業や産業、上級学校などについての情報を集め、進路先に対するさまざまな知識をもつことによって、自分がどのような進路をめざすのか、進路の方向や目標を定めていくものである。初めは視野を広げるために、さまざまな分野や多様な観点からの情報を集める（提供する）。必要な情報の選択ができるようになったら、自分の進路の方向にそった、より

具体的な情報を集め、意志決定ができるようにする。

進路の選択決定にむけてガイダンスとカウンセリングがうまく機能したとき、真に「あり方生き方」に迫る進路指導となるであろう。それゆえ、教師はカウンセリングマインドとカウンセリングに対する基礎的な知識・技能が必要となってくる。

### (5) 啓発的経験

啓発とは、特定の感情、認知、行動へのとらわれから解放されて、新しい感情、認知、行動体験をする学習をさす。啓発的経験は、体験学習をとおして生徒の自己啓発意欲を引き出す指導である。具体例をあげれば、職場見学、講話を通じて社会人から学ぶ、上級学校訪問、ボランティア体験などがある。

一般的に、体験的理解は机上の理解よりも刺激が強い。相手方に真剣に対応してもらえると、効果は倍増するであろう。そのためには、啓発的経験の意義を相手方に十二分に理解してもらう必要がある。事前の入念な準備が重要である。

2年生という段階では、社会人による講話、職場体験学習を取り入れたいところである。本研究においては、社会人による講話は単元の中に組み込んだが、職場体験学習まで実践することはできない。しかし、本校の「総合的な学習の時間」において、2学期に「職場体験学習」の予定がある。それを視野に入れて、夢や希望、抱負などの気構えを開拓していきたい。同じ体験でも、事前学習をしないとしないのでは、得てくるものに違いがあるのではなかろうか。

### (6) 「あり方生き方」指導は全教育活動で

先に「人間は人やあらゆる事物との出会いの中で生まれ錬磨されていく」と述べたが、授業を中心とする日々の教育活動の中で、生徒の内面にゆさぶりをかけ、より高次のものへとひきあげていくことができると思う。フランク心理学によれば、真の自己発見のためには、人はむしろ、自分を忘れなければならない。自分を取り巻く社会の問題に直面し、「わたしが何とか

しなくては」という使命感を抱くことが、結果的にその人のライフワークを定め、真の自己発見につながるという。また「自分は何者か」という命題を前に、教材の中の他者がモデルになり自己洞察を深める事もあり得る。そのような視点で見てくると、教科世界は「出会い (Begegnung)」の宝庫であるといえることができる。学校教育の一番の柱は、各教科の授業である。授業は、単に知識の伝達や技能の習熟の場ではなく、全人的な教育のアプローチの場であるという視点が必要である。

### 3 振り返りの材料『ポートフォリオ』

#### (1) ポートフォリオとは

ポートフォリオとは、もともとは「折りたたみ靴」を意味する言葉である。必要不可欠な情報をコンパクトに集約したもので、個人または企業が、その実績を効果的に宣伝するための手法である。

このポートフォリオが教育界に提唱されるのは、米国で1980年代後半頃からのことである。それまではもっぱら行動主義だった教育観に、構成主義の考え方が提唱されるようになり、それに伴う評価としてポートフォリオが登場する。

#### (2) 「本物の学習」と「本物の評価」

ハワード・ガードナーが唱える新学力観（従来の学力・芸術的センス・身体的表現・コミュニケーション能力など）は、従来の学力検査では測ることができない。子ども達がさまざまな体験をとおして課題を追求していく本物の学習 (authentic learning) に対し本物の評価 (authentic assessment) はどうあるべきか。

子ども達は、課題追求の過程で得たあらゆるものをコレクションしていく。それを学習の節目で振り返り、効果的に再編集し直す。それがポートフォリオである。そこに個々人の価値観が働き、個性が表れてくるのである。

評価のしかたは、ポートフォリオを間にはさ

み、教師と生徒が対話する形で行われる。教師はポートフォリオを見ながらいくつかの質問をする。生徒は、この学びを通して何を得たか、何ができるようになったかを自己申告する。さらにプレゼンテーションすることで、生徒相互間の交流を図り、親への説明責任を果たす。

ポートフォリオには評価は行わない。生徒の学びを支援し、成長を肯定的に評価する所見があるのみである。

#### (3) 「あり方生き方」指導にポートフォリオを

この「本物の学習 (authentic learning)」という考え方は、われわれが取り組もうとしている「総合的な学習」の概念に酷似する。アセスメントのあり方としてのポートフォリオも十分にその要求を充たすものであると考える。同じ学習過程を経験してきても、その記憶や印象はそれぞれに違うはずである。

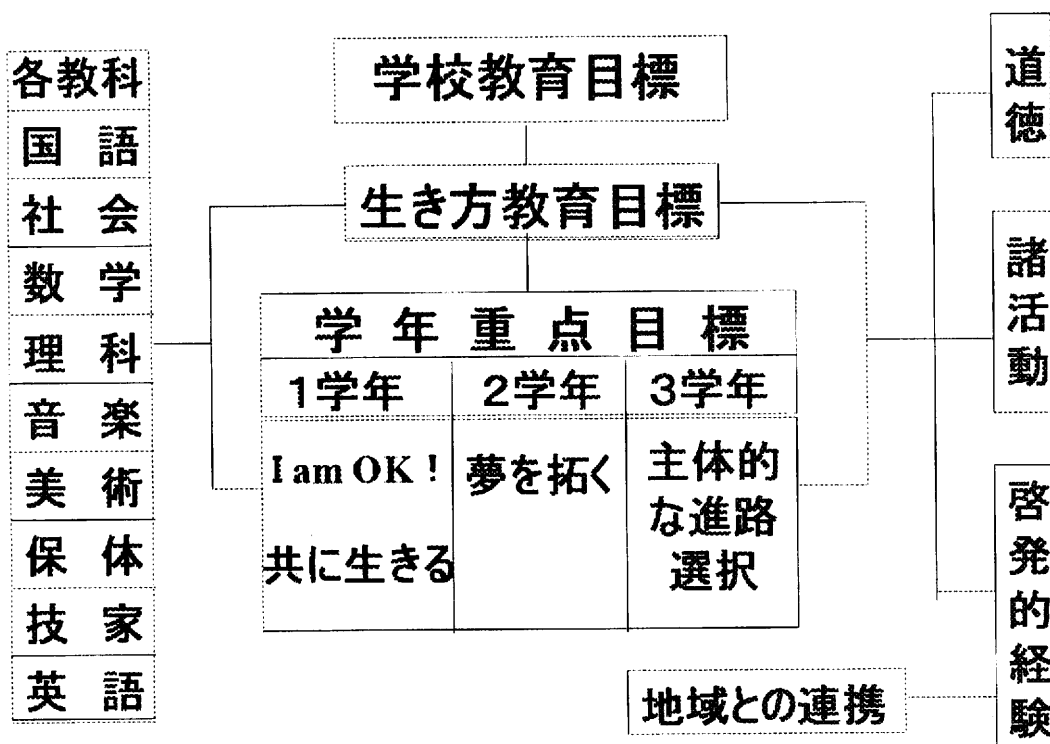
ましてや自らの生き方を考える進路学習ともなれば、思いはさまざまであろう。これまでの学びを再編成する中で、生徒は自己概念を形成し、さらに自らの生き方を探索し、それを計画的に実現しようとする意欲や態度をもつようになるであろう。

#### (4) 『スタディーノート』の吟味

本研究においては、『スタディーノート』という学習支援ソフトを用いたい。このソフトは、ワープロとメール機能を兼ね備えたもので、自らの作品を電子掲示板に載せて回覧したり、特定の個人にメールを送ったりできる。

まとめる段階において、生徒はこれまでの学びを再構築するであろうし、より効果的に仕上げるために、色彩やレイアウトなど、これまでに培った「知」を総動員することになる。また電子掲示板に載せることで、友人の反応を伺うことができ、また友人の作品に刺激を受けたりと、学びの交流も期待できる。教師は、製作の過程で相談に応じたり、コメントをメールで送ったりと個人カウンセリングにも役立てることができる。

## 単元の構想図



### 1 学年

	道 徳	「あり方生き方」単元	他領域関連
1 学期	『まるごと好きです』（個性の尊重） 『深雪ちゃんのこと』（自己を見つめて） 『合唱コンクール』（集団への貢献）	3年間の進路学習の見通し SGE「X先生を知るイエス・ノー」 SGE「インタビュー・他己紹介」	新入生オリエンテーション 親子進路学習会
2 学期	『車椅子の重み』（住み良い社会） 『ネパールのビール』（誠実な行動） 『廃品回収で学んだこと』（誠実・責任） 『楽寿号にのって』（奉仕）	SGE「ブラインド・ウォーク」 SGE「インタビュー・文化祭」 進路学習「働く人々の姿」 「私たちにできるボランティア」	文化祭 総合・授産施設での交流 総合・職場見学
3 学期	『雪ん子のうた』（生き甲斐を求めて） 『青い鳥』（希望を求めて） 『父からの手紙』（家族愛）	進路学習「進路と将来設計」 保護者文集「中学生の君へ」を元にした進路学習	保護者会「思春期の我が子と向き合う」



## 2 学 年

	道 徳	「あり方生き方」単元	他領域関連
1 学 期	『太平洋と日本海をつなぐ桜道』 (理想の実現) 『心をつなぐバス』(感謝と思いやり) 『藤野先生』 (国際理解と平和)	SGE「エンカウンターしよう」 SGE「今の自分となりたいたい自分」 職業人の講話 SGE/KJ 法「人はなぜ働くのか」	親子進路学習会
2 学 期	『加山さんの願い』 (勤労・奉仕) 『鉄塔を登る男』 (勤労・奉仕) 『心をつなぐバス』(感謝と思いやり) 『藤野先生』 (国際理解と平和)	SGE「共同絵画」 進路学習「職業の内容を調べよう」 進路学習「資格のいる職業」 SGE「私の四面鏡」 修学旅行事前学習/郷土の文化	文化祭 総合・職場体験 学習
3 学 期	『デンさん』(理想の実現) 『マナスル登頂』(集団への貢献) 『道程』(誠実と責任) 『木を植えた男』(理想の実現)	SGE「ブラインドウォーク」 修学旅行事前学習 進路学習「適性を生かす職業」 進路学習「進路計画を立てよう」	修学旅行 学年朝会「先輩 の進路」

## 3 学 年

	道 徳	「あり方生き方」単元	他領域関連
1 学 期	『兄からのメッセージ』(個性の尊重) 『脇役の力』(社会的役割と責任) 『命見つめて』(国際理解と平和)	SGE「人生時計」 進路学習「先輩の姿に学ぶ」 SGE/KJ 法「進路探索」 ステージ・スリ「学習のコツ」	親子進路学習会 国語・「握手」 個人面談
2 学 期	『六千人の命のピザ』(人類愛) 『震災の中で』(社会への奉仕) 『渡良瀬川の鉱毒』(公正公平) 『われ、ここに生きる』(社会への奉仕)	SGE「貿易ゲーム」 進路学習「進路先を調べる」 進路学習「資格のいる職業」 進路学習「進路先の最終検討」 SGE「ブラインド・デート」	文化祭 一日体験入学 総合・上級学校 調べ 国語・「故郷」
3 学 期	『克己の精神三題』(生き方の追求) 『大きな木』(愛) 『ひとりしかいない自分』(自主・自立)	「人生の轍」 「受検の心構え」 SGE「別れの花束」 「卒業式の招待状」	高校入試 卒業式

## Ⅶ 研究の実際

### 1 単元名 『自分探しの旅』

#### 2 単元について

単元構想を元に、2年生1学期に焦点をあてた単元を構成した。

中堅学年に入った生徒達。部活、委員会活動など、各々の活路を見いだす時期である。反面、思春期にさしかかり、自分でも自分自身がつかめない状況となりやすい。他者の目に自分がどう映るかは、この時期の生徒にとって、大きな関心事であろう。また客観的な自己理解は、自身の進路選択の上でも重要である。それ故、暖かな人間関係を作り、その土台の上に自己像を結ばせたいと考え、構成的グループエンカウターのエクササイズを第1・2・4時に配した。また働く人々の姿・生き方に関心を持たせ、焦点化させるため、『身近な人の職業調べ』を宿題に課し、第3時には、保護者の協力を得て『職業人の講話』をおいた。身近にいる社会人に直接インタビューしたり、教室に招いて直に話を聞くことで、生徒は自らの将来へも思いをはせるはずである。この単元の山場は第4時の『人はなぜ働くのか』である。ブレンストーミングという方法を用いたグループ活動でテーマについて話し合い、考えさせたい。そして単元の節目には、『スタディーノート』という学習支援ソフトを用いたポートフォリオを位

置づけた。生徒は、これまでの学びを振り返る中で、自らの学びを再構築していくであろう。また学級LANにして相互に交流させることで、友人達の学習の多様性に目を見開かされたり、新たなコミュニケーションの場として更なる効果が期待できる。

この単元を通して、2学期に予定されている職場体験学習に向けての期待や抱負をもたせることができれば幸いである。

#### 3 生徒について

男子20名・女子19名(計39名)の学級。全体的に明るく元気があるが、私語が多く、授業中に注意を受けることがある。

進路に対する意識調査では、ほぼ全員が上級学校への進学を考えていることがわかる。しかし、上級学校または職業に関する知識は漠然としており、「進路選択はまだ先のこと」ととらえる生徒が大部分である。また「生き方」のモデルとして具体的な人物をあげたのは、全体の5分の1しかおらず、「生き方のモデルがない」現代っ子の特徴が、ここでもうかがえる。「悩み」で上位3位に上がってきたのは、「苦手な教科がある」「授業に集中できない」「希望する進路に進めるかどうか」の順であった。学業成績が進路選択の大きな要因を占めると考え、不安をもっている生徒が多いことがわかる。

### 中学卒業後の進路希望

	中卒後就職	高卒後就職	短大専門学	大 学
男	0	7	6	6
女	0	3	10	5
計	0	10	16	11

### 自分自身に関すること

	よく	-----	-----	-----	全く
自分の長所短所がわかる	7	12	17	2	0
興味ある仕事がある	17	14	7	1	2
それを調べたことある	4	8	16	7	3
上級学校調べたことある	1	10	15	8	3
夢や希望の実現を考えてる	13	11	10	3	2

#### 4 授業計画

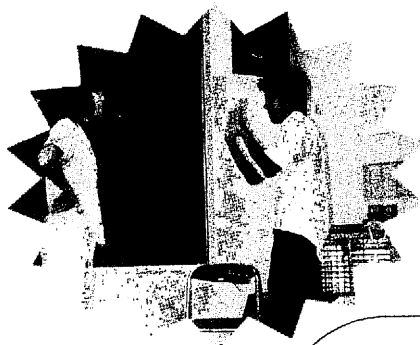
授 業 内 容	ね ら い
『エンカウンターしよう』 ☆ハッピーバースデー ☆インタビュー	構成的グループエンカウターのエクササイズを通して、自己開示、相互理解のねらいに到達する
宿題『身近かな人の職業調べ』 － 1週間後に教室掲示－	身近かな社会人にインタビューすることで、働く人の姿・考え方に触れさせる
『今の自分となりたい自分』 ☆エゴグラム	自分の心の傾向と「なりたい自分」の心の傾向を知ること、どの自我状態を高めた方がよいか考えさせる
『職業人の講話』	保護者の協力を得て、進路・家庭・友人・職業について語ってもらい、生徒の進路意識を高めさせる
検証授業『人はなぜ働くのか』 ☆ブレインストーミング ☆KJ法	共同作業を通して、テーマについて話し合い、多様な価値観のあることを知り、自身の考えを深めさせる
ポートフォリオ作成	個人面談をして、これまでの学びを振り返らせ、項立てをさせる ポートフォリオを作成させる

#### 5 単元の概要（本時まで）

##### 第1時 『エンカウンターしよう』

構成的グループエンカウターのエクササイズを通して、自己開示・相互理解のねらいに到達する

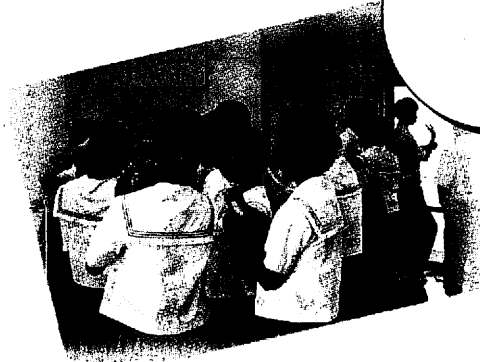
場 面	教師の初問(○) 指示(◇) 説明(△)	生 徒 の 活 動	留 意 点
導 入	△本時の学習のねらいと内容を知らせる	・本時の学習のねらいと内容を知る	・視聴覚室、生徒は床に自由に座る
インストラクション	△『ハッピーバースデー』ルール説明		
モデリング	◇A君指名、見本を見せてもらう	・A君モデリングをする	
エクササイズ	◇エクササイズ開始の合図(笛) ◇エクササイズ終了の合図(笛)	・全員エクササイズを行う ・前後で並び方を確認	・必要に応じて介入 ・課題達成を賞賛
インストラクション	△『インタビュー』ルールの説明		
モデリング	◇Bさん指名、見本を見せてもらう	・Bさんモデリングを行う	
エクササイズ	◇エクササイズ開始の合図(笛)	・全員エクササイズを行う	・必要に応じて介入
シェアリング	○今日の授業で感じたことは？	・3～4指名で答える	



### モデリング『ハッピーバースデー』

誕生日の若い順に並ぶ。但ししゃべってはいけない。  
ジェスチャーだけでお互いの情報を伝え合う。  
まず彼に模範演技をお願いした。

いざ  
エクササイズ  
開始



### 『インタビュー』

ジャンケンで順番を決め、交互に  
2分間ずつ相手に質問する。

答えたくない  
質問には  
pass 権を行使



### 『シェアリング』一振り返りの時間

「知らない人と友達になる時も、まっているだけではだめだと思った。」（女子）

「自分が話している時に聞いていない人がいるといや。自分は人の話が聞けるようにしたい。」（女子）

「言葉を使わずに思いを伝えるのはむずかしい。」（男子）

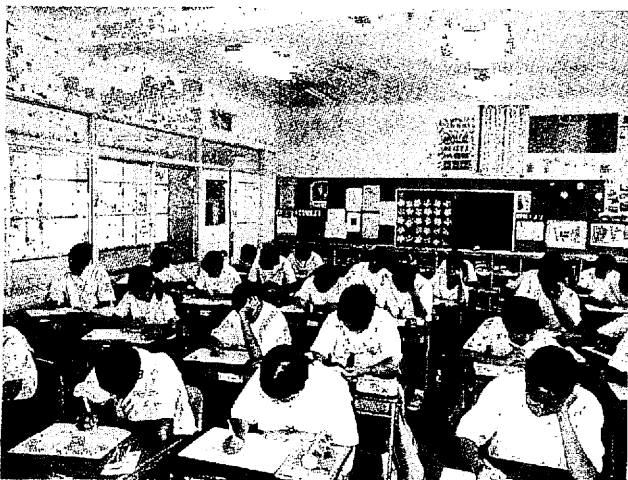
「以心伝心の意味がわかった。」（男子）

「話をすることはとてもたのしい。次は男子ともやってみたいな。」（女子）

第2時 『今の自分となりたい自分』

自分の今の心の傾向となりたい自分の心の傾向を比べ、どの自我状態を伸ばした方がよいか考える

場面	教師の初問 (○) 指示 (◇) 説明 (△)	生徒の活動	留意点
インストラクション	△本時の学習のねらいと内容を知らせる	・本時の学習のねらいと内容を知る	
エクササイズ	◇各自、エゴグラムチェックリストの設問に答えさせる	・エゴグラムチェックリストにトライ	・直感で回答するよう示唆する
モデリング	◇折れ線グラフを書き入れさせる △教師、「三つの心」のモデリングを実演する	・折れ線グラフを記入 ・人間の心には、親の部分、大人の部分、子ども	・どの傾向にも優劣はないことを強調
シェアリング	△各々の結果について、隣同士伝えあい、それについてコメントする	の部分があることを理解	
エクササイズ	◇今度は「こうありたい」と思う自分になって、設問に答えさせる ○自分の心の傾向で、大事にしたいと思う処はどんなところか ○自分にとって、どんな処を伸ばしたら良いと思うか	・「こうありたい」自分になって回答する ・教師の二つの初問について考える。ワークシート記入	
シェアリング	○今日の授業で感じたことはどんなことか	・挙手して答える	・指名ではなく、自発的な発言を出させたい



真剣な表情でチェックリストに臨む



「三つの心」のモデリングに見入る

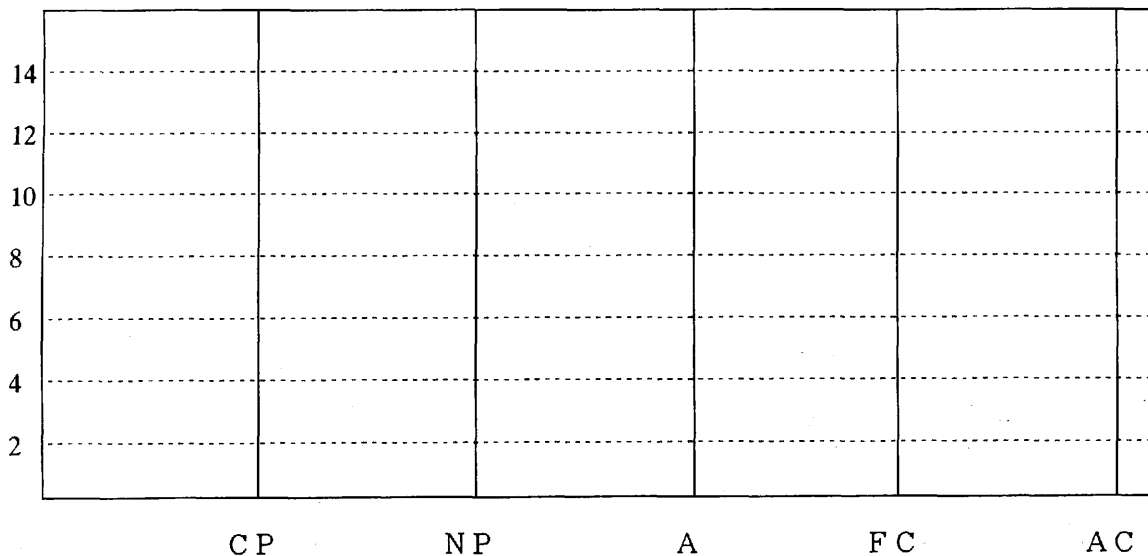
以下の質問に、はい (○), どちらともつかない (△), いいえ (×) で答えてください。

○が2点, △が1点, ×が0点

○ △ ×

C	1	あなたは、何事もきちっとしないと気が済まない方ですか。			
	P 2	人が間違ったことをした時、なかなか許せませんか。			
N	7	助けを求められると、私にまかせてと言いますか。			
	P 10	食べ物や着る物のない人がいたら、助けてあげますか。			
A	5	何かする場合、損か得かよく考えてからしますか。			
	10	占いや迷信などは、絶対に信じない方ですか。			
F	4	あなたは言いたいことを遠慮なく言うことができますか。			
C	9	絵を描いたり、歌ったりするのが好きですか。			
A	1	あなたは人の顔を見て行動をとるようなくせがありますか。			
C	7	悲しみや憂鬱な気持ちになることがよくありますか。			

それぞれの得点を線でつないで、折れ線グラフにしてください。



私の三つの心

	内 容	性 質	出てくる言葉	姿勢・動作・表情
批判的 C P	自分の考えや物の見方が正しいという確信のもとに、人にそのことを教えよう、人もそのように考えるべきだという心 人を従わせようとする心	偏見的 封建的 権威的 非難的 批判的	「理屈を言うな」 「当然でしょう」 「言うとおりにしろ」 「～しろ」 「ばかもの」	自信過剰 支配的 尊大、ボスの けんか腰 他者を利用する
保護的 N P	親切、思いやりの心、心の広さ 人をいたわり、励まし、親身になって面倒をみる 罰するより、許し、ほめる	救援的 甘やかす 保護的 思いやり 心づかい	「してあげよう」 「わかるわ」 「まかせておきなさい」 「がんばりましょう」	手をさしのべる 受容的 ほほえむ 肩に手をおく 世話をやく
大人 A	事実に基づいて物事を判断しようとする。感情に左右されず、客観的に物事を考えて判断していく	知性的 分析的 合理的 客観的	「いつ・どこで・だれが・なぜ…」 「事実」 「具体的にいうと」 「私の意見では」	冷静 観察的 機械的な態度 安定した姿勢 対等な態度
自由児 F C	子どもが本来もっている、自由で自然な姿。好奇心や創造性に満ちていて、自然の感情に従う。 天真らんまんだが、自己中心的で現実を考えずに、思いのままに行動する	本能的 積極的 創造的 感情的 直感的 行動的	「うれしい！」などに代表される感嘆詞 のつく台詞 「わ～い!」「好き!」 「～できない」 「ほしい」	自由な感情表現 活発 自発的 よく笑う ふざける ユーモアに富む
順応児 A C	自分の本当の感情や欲求を抑えて、親や教師などの期待にこたえようとする心。「いい子」いやなことはいやといえない。自然な感情を出さない。自発性に欠ける	感情抑制的 順応的 消極的 依存的	「よくわかりません」 「悲しい、さびしい」 「どうせ私なんか」 「もういいんです」 「～は困るんです」	気を使う 迎合的 ため息 反抗的 無遠慮

○ 生徒の感想

「大人の心、従順な子供の心が高いと知った。分析的・冷静・というのはあっているかもしれない」

「絵を描くのが好きというのが、なぜ分かったんだろう。」

「子どもの心の部分を大事にしたい。」

「思いやりとか心の広さという部分を大切にしたいです。」

第3時 『職業人の講話』

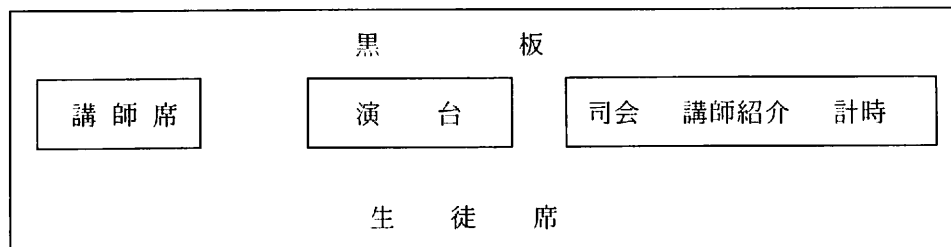
保護者の協力を得て、進路・家庭・友人・職業について語ってもらい、生徒の進路意識を高める

場 面	教師 (○) 司会 (◇) 講師 (◎) 各係	生 徒 の 活 動	
導 入	○ 初めの号令をかけさせる (係) 講師を教室に案内する ◇ 開会宣言。本時の学習のねらいと内容を知らせる (係) 講師紹介 ◎ 講師登壇・講話の始まり  ◇ 質疑応答の開始 (係) 質疑終了の合図 (係) お礼の言葉 (係) 講師を誘導、講師退場	・ 全員拍手で迎える  ・ メモを取りながら、話を聞く ・ 3～4人  ・ 全員拍手で送る ・ ワークシート記入	・ 事前に取材

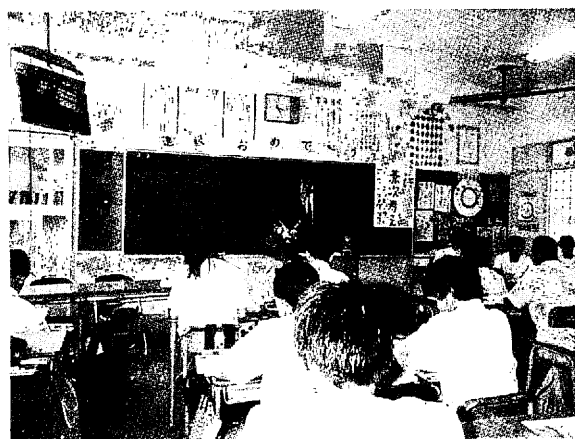
1 役割分担

司会(M男) 誘導(M男) 講師紹介(H女) 計時(T女) お礼の言葉(Y女)

2 会場図



3 講演会の様子





## 進路学習講演会レジュメ

### 1. 講師のプロフィール

- (1) 名前 兼次 寿
- (2) 生年月日 1959年3月7日(今年41才)
- (3) 出身地 沖縄県本部町備瀬(海洋博公園の北側)
- (4) 略歴 ……

### 2. 講演の内容

- (1) 自己紹介
- (2) 中学時代のこと
- (3) 他人と自分のこと
- (4) 仕事を選んだ理由
- (5) 仲間のこと
- (6) 自信について

### 3. 講演を聞いての感想

---

---

『講師紹介』系の生徒の取材に、講師自らレジュメを作り、FAXで送ってくれた

#### ☆ 生徒の感想

「私は、進路や就職先は決まっているけど、他にもいろんなこと(自分のこと・仲間・他の人のこと)を考えることが、進路につながっていくことを知った。」

「私は将来、今習っている琉球舞踊を仕事にしようと思っているので、兼次さんの趣味を生かした仕事というのが、とても心に残っています。お話を聴いて、私もがんばろうと思いました。」

「講演を聞いて、自信とは自分を信用することだと知った。自分のやりたと思うことは、やったらできる、やらないからできない。これからは、もっと自分のことを信用してがんばりたい。」

「失敗しても軌道修正できるのだから、くじけずにいろんな経験をして、自分にピッタリの仕事を見つきたい。機会があれば、もっといろんな話を聞きたいと思う。」

「仕事より家族が大事と聞いてビックリした。でも何となくうれしかった。私も将来、すてきな家族をもって、家族のために仕事をがんばりたい。」

6 検証授業（4/4）

（1）題材名 「人はなぜ働くのか」

（2）本時のねらい

共同作業を通して話し合い、多様な価値観のあることを知り、自身の考えを深めさせる

（3）本時の展開

	教師の発問（○）指示（◇）説明（△）	生徒の活動	留意点
インストラクション	△本時の学習のねらいと内容を知らせる	・本時の学習のねらいと内容を知る	・通常通りの座席
エクササイズ1	○「あなたが将来職業を選ぶ場合、どの項目を重視するか」 ○「それでは、もっと拡げて、人はなぜ働くのだろうか」 △隣同士で、自分の考えを伝えあおう ジャンケンで順番を決めて始める △隣同士、考えが同じだったところは挙手させる	・自分の考えをワークシートに記入 ・ワークシート2に記入 ・握手をし、ジャンケンで順番を決めてから、伝え合う	・自身の基準を明確化させる ・自分の考えに思いをはせるよう雰囲気作り 関係作り・自己開示
エクササイズ2 (ブレンストーミング)	△グループを作り、座らせる △思いつくかぎりの理由を付箋に書き出させる (注意) ・出された意見は批判せず全て受容 ・他の人の考えにアレンジOK	・生徒グループを作る ・生徒ブレンストーミングを行う	・ブレンストーミングの約束事を黒板に貼り出す
(KJ法) (発表)	△付箋に書いてある理由を内容の似ているもの同士に分類、ネーミングする △グループ毎に発表させる	・生徒は分類とネーミングの作業を行う ・グループの代表が出て発表する	・机間指導
シェアリング	○「今日の授業で気がついたことは何か」 ◇コメントを加え本時のまとめとする	・2～3人発表する	

（4）本時の評価

- ・意欲的に授業に参加することができたか
- ・共同作業を通して、多様な価値観があることに気がついたか
- ・テーマについて、自分自身の考えを深化させることができたか

自分探しの旅 (第4時)

「人はなぜ働くのか」

学習のめあて 共同作業を通して話し合い、多様な価値観があることを知り、自身の考えを深めることができたか

エクササイズ ☆ブレインストーミング ☆KJ法

その1 職業を選ぶ場合、あなたは、次のどの項目を重視しますか

項 目	評 点
収入が多くて豊かな生活ができる職業	全く ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— とても
社会的な地位や名声の得られる職業	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5
世の中や人々のためにつくせる職業	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5
働く時間がきちんとしていて、自分の生活を楽しむことができる職業	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5
自分の個性や能力を生かせる職業	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5
平凡であっても安定している職業	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5
他人に使われない職業	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5
時間や場所にしばられない自由な職業	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5
他人から注目され、目立つ職業	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5

その2 「人はなぜ働くのだろうか」、あなたの考えを書いてください。

## Ⅶ 研究の成果と課題

### 1 単元の考察

	授 業 内 容	考 察
第 1 時	『エンカウンターしよう』	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 構成的グループエンカウンターについて 楽しい(29人) 楽しくない(5人)</li> <li>・ ねらいについて 達成できた(34人) 達成できなかった(3人)「待っていてはだめ」「分かり合えるのは楽しい」に見られるように、自己開示・相互理解のねらいは概ね達成されている</li> </ul>
第 2 時	『今の自分となりた自分』	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日課の変更等があり、時間が10分以上短縮してしまった。そのため、最後のまとめができなかった。</li> <li>・ エゴグラムについて 自分自身には興味があるらしい、5つの心のモデリングを教師が行うと、「あっ、自分だ！」などさかんに声があがった。どの傾向にも優劣はないこと、「なりた自分」の理解が十分に達成されていないのが残念</li> </ul>
第 3 時	「職業人の講話」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講師について 単元の趣旨を十分に理解し、とても協力的であった。職業の話のみならず、中学時代・友人・進路選択について等の話は、生徒達に共感をもって受け止められていた。</li> <li>・ 生徒について 幾分緊張気味であったが、各々の状況で話を受け止めていた。「僕はまだ進路が決まっていないのですが、これからでも大丈夫ですか」等、質問も活発。教師でない大人との交流は、生徒にとって新鮮であったようだ。</li> </ul>
第 4 時	「人はなぜ働くのか」	<p>(検証授業反省会より)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワークシート1, 予め書かせておいて、学級の実態はこうなっているが、君はどうかというやり方もある。</li> <li>・ ジャンケンの場面、関係作りの大事な場面なので、もっと教師の積極的な介入がほしかった</li> <li>・ 生徒の活動は活発で良かった</li> <li>・ シェアリングの時間確保の工夫</li> </ul>

課 外 授 業	ポートフォリオ作成	<p>で、積極的に教えあう雰囲気が自然発生的にできていた</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ポートフォリオ作成にあたり、やっと教壇からおりて、一人ひとりと意志疎通できたような気がした。</li> <li>・ まとめ上げる段階で、何度も学習ファイルを振り返り、友人と話し合い、学びを再構築していた</li> <li>・ 自己理解が職業への関心、将来の希望と結びついているのが、作品を通して伺えた</li> </ul>
------------------	-----------	---

## 2 作業仮説の考察

### (1) 作業仮説1について

構成的グループエンカウンターは、学級の受容共感的な雰囲気作りに有効であった。また、そのような雰囲気を心地良いと感じ、自分を好きになっていったようである。

### (2) 作業仮説2について

エゴグラムや「職業人の講話」を取り入れることで、生徒の視野を広げることができた。道徳や教科からのアプローチは、時間を組み込むことができなかった。今後の課題である。

### (3) 作業仮説3について

ポートフォリオ特に『スタディーノート』は、生徒の学びの再構築に非常に有効であった。また作成の段階で、一人ひとりと密に関われ、カウンセリングの観点でも有効である。今後、職場体験学習の後に、交流会をもちたい。

## 3 今後の課題

(1) 今後の単元構成－2学期（職場体験学習・文化祭を核にすえて）3学期（修学旅行を核にすえて）

(2) 教科や道徳、日常場面における「出会い」の演出

(3) 振り返りのためのゆとりある学習時間の確保

### 終わりに

常に夢や希望をもち輝いてほしい、その願いから本研究を進めてきた。私自身さまざまな出会い（Begegnung）を経験した。本文中何度も引用したポ

ルノーの言葉は、私にとっても貴重な宝である。ばらまかれた砂が一拳に形をなし絵画を形成する、私の研究はそのようなものであったと、今にして思う。

それも新城所長を初め、新川係長、与古田指導主事、研究所の所員の方々の、これまでの支えと導きのおかげと深く感謝しています。また適応教室の指導員の方々との出会いも貴重なものでした。キリスト教短期大学教授の渡口政順先生、仲西中の松岡幸子教頭先生にはご助言をいただき示唆を得ることができました。単元の趣旨を理解して下さり、忙しい時間の合間をぬって御講話くださった兼次寿様、そして、このような研修の機会を与えて下さった浦添市教育委員会のみなさま、棚原校長をはじめとする港川中学職員のみなさま、本当にありがとうございました。特に、学級開きの段階から学級を導き守って下さった徳村三奈子先生には、とても感謝しています。最後に、私の研究に理解と惜しみない協力をくれた家族に心から「ありがとう」

半年間、暖めてきたことを今後も更に継承し、私自身の夢へとつなげていきたいと思えます。

### [主な引用・参考文献]

- |              |                            |
|--------------|----------------------------|
| 國分康孝編集（1998） | 進路指導と育てるカウンセリング            |
| 國分康孝監修（1998） | エンカウンターで学級が変わる             |
| 田中熊次郎著（1987） | グループセラピー                   |
| 寺西和子（2000）   | 「総合的な学習」には「ポートフォリオ評価」が活きる！ |